

12月初旬帯広に着任して以来、最も感謝していることは、この十勝地方の天気の良いことである。雪雲に覆われたドカ雪の札幌から根室本線に乗車して日高山脈を越えた途端、一転十勝の雄大な肥沃な土地と青い空であった。トンネルを抜けるとそこは雪国だったとは正に正反対の感慨である。その時は、小生の東北海道赴任を歓迎する神の思し召しの稀有な天候であろうと感じたものである。後で聞いてみると、この時期、十勝地方は晴天に恵まれることが多く、それを『十勝晴れ』と称するのだそうだ。

確かに、当地に着任一ヶ月、毎日の天気予報を見ても帯広を含む十勝支庁、釧路などの釧路支庁は殆ど晴天の晴れマークだ。そこで、帯広の日照時間と日照率を地誌資料から調べてみた。帯広の年間の日照時間は、2,022時間である。水平線を基準とした日の出から日没までの時間をその日の可照時間と云い、その可照時間に対する日照時間の比を日照率と称するが、帯広の日照率は46%である。即ち、極めて大雑把に言えば、1年間の日中の半分は太陽・日輪が出ているということである。東北海道（道東）は総じて年間を通じて天候に恵まれているが、その中でも十勝地方は群を抜いているようだ。冬季の日照率は、50%以上、その中でも2月は61%に上っている。

インターネットで、年間日照時間の長い地域を調べてみた。地域的には、十勝地方、山梨県地方、東海地方、紀伊半島南部、瀬戸内海、四国南岸、九州東岸が2000時間を越えている。別の資料によると山梨県明野村の日照時間は、2664時間で、日本一である。

十勝晴れの素晴らしい天気の下、日高山脈や大雪山系、阿寒山系を空中から眺める機会があったが、それは最高の一大パノラマであった。陽光に山肌の雪渓が煌き、険しい山容を浮かび上がらせている。カメラを持参してこなかったことを悔いたものである。

北海道勤務は4回目であるが、斯様な天候気象は初めてである。生活するには快適である。雪の少なさ故であろう。併し、道路状況は車両の走行に最適とは言い難い。メイン道路は日当たる所は舗装面が出ているが、ビル影などは所々にアイスバーンと言うよりも氷の塊が点在しており、小生のような雪国初心者には、危ないこと夥しい。ロードヒーティングもあまりなされていない。そういえば、除排雪の経費もあまり多くは計上していないとも聞いた。

当地の雪も水分が少なく、孫に雪達磨を作って遊ばせようとしても、ママならぬ。軽くて、庭の除雪には最高だし、スキー場で倒れても濡れることがないのはあり難い。

日照時間の長さやシバレの強さによって、十勝地方は肥沃であり、食料の一大生産地となっている。シバレないと翌年の畑作の出来は良くないのだそうだ。厳しいシバレが土中の害虫や病原菌を退治してくれると言う。